

森林総合研究所 REDD 研究開発センター
平成 26 年度第 2 回公開セミナー

REDD+ プラスの 資金メカニズムとその活用

REDD+ Finance Mechanism and Its Optimum Use

2015 年 2 月 3 日・4 日

東京大学伊藤謝恩ホール (東京メトロ本郷三丁目駅徒歩 8 分)

参加無料 / 日本語・英語 (同時通訳)

▶参加申込 (1月23日締切)

登録用サイトよりお申込みください。

<https://business.form-mailer.jp/fms/a9c737e637887>



▶プログラム・詳細

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/redd-rdc/ja/>



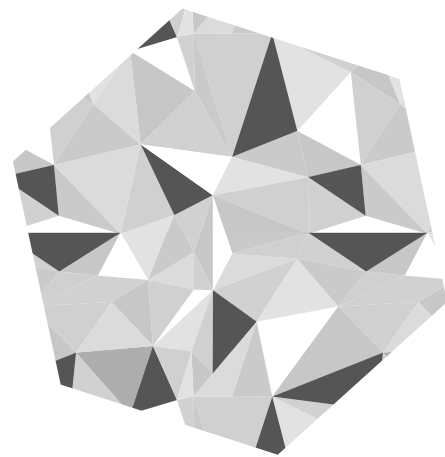
▶お問い合わせ: 森林総合研究所 REDD 研究開発センター公開セミナー運営事務局
国際緑化推進センター (担当: 棚橋・高橋) 9-829-8365 メール: [redd-rd-center@ffpri.affrc.go.jp](mailto:red-d-center@ffpri.affrc.go.jp)

- ▶主催: 森林総合研究所
- ▶共催: 国際協力機構 (JICA)、国際熱帯木材機関 (ITTO)、地球環境戦略研究機関 (IGES)、国際林業研究センター (CIFOR)
- ▶後援: 日本森林学会、日本熱帯生態学会、日本リモートセンシング学会、日本写真測量学会

平成 26 年度公開セミナー

REDD プラスの 資金メカニズムとその活用

REDD+ Finance Mechanism and Its Optimum Use



▶ セミナー開催趣旨

REDD プラスのための資金メカニズムは、当初予想されたようなコンプライアンスマーケットを主体としたものから、多国間、二国間、市場、非市場を含む様々な資金や支援を組み合わせる方向に向かいつつあります。こうした流れの中で、制度の複雑化や重複を避けつつ十分な資金を確保していくために、多様な資金をどのように組み合わせ、活用していくかが大きな課題となっています。一方、REDD プラス対象各国では、受け入れた国際資金をどのように活用し、森林減少・劣化の現場でドライバーに対処していくのかについて、国内における早急な体制整備と制度設計が求められています。

このような背景の下、本セミナーでは、REDD プラスの資金に関する最新の国際的な動向について情報共有を図るとともに、その今後の課題と展望について議論します。また、REDD プラス対象各国内における国際資金の効率的な管理・運用に向けた制度設計、既存の国内制度や公的支援との組み合わせによる効果的なドライバー対策等に関する知見を共有し、各国の REDD プラス推進による持続可能な森林経営の実現に向けた方策について議論します。

▶ 基調講演 スピーカー紹介



高村 ゆかり
名古屋大学大学院
環境学研究科 教授

静岡大学助教授、龍谷大学教授などを経て、2011 年より現職。国際環境法学を専門とし、京都議定書など地球温暖化に対処する国際的な法制度・政策などに関する研究を行っている。近著に『気候変動と国際協調—京都議定書と多国間協調の行方』慈学社（2011）、亀山康子・高村ゆかり編著がある。



William Sunderlin
国際林業研究センター
(CIFOR) 首席研究員

コーネル大学で PhD（農村社会学）を取得。専門は、土地利用権、生計活動、森林減少・劣化に関する要因分析など。現在は、REDD プラスに関する比較研究プロジェクトに従事しており、近著に『REDD+ を解析する』CIFOR(2012)、アリルド・アンデルセン編著・ウィリアム・サンダーリンら共編がある。

▶ プログラム

▶ 2月3日（火）

セッション1：基調講演

REDD プラスの資金—その動員と森林保全への適切な活用

セッション2：REDD+ のための多国間・二国間資金メカニズムの課題—準備段階からその先へ

セッション3：REDD+ 活動の適切な支援のための民間と NGO の役割

セッション4：パネルディスカッション

▶ 2月4日（水）

セッション1：基調講演

森林保全と持続可能な森林経営に向けた国家ガバナンスの構築

セッション2：REDD+ 関連資金の管理と運用

セッション3：森林保全と持続可能な森林経営に向けた効果的な制度設計—環境サービス支払いから—

セッション4：パネルディスカッション